

さがしてみよう！ ⑥明治時代のもの

大井郷土資料館 <住所 ふじみ野市大井中央2-19-5 電話 049-263-3111>

上福岡歴史民俗資料館<住所 ふじみ野市長宮1-2-11 電話 049-261-6065>

★明治時代に関係すること・文化財など★

福岡河岸の回そう問屋の建物

明治時代に入っても、新河岸川舟運は盛んに行われていました。

船着場だった福岡河岸には、回そう問屋（船で運ばんする荷物をあつかった店）の明治時代の建物が残っています。「福田屋」（福岡河岸記念館）は中も見学できます（有料）。



回そう問屋福田屋の主屋（おもや）、文庫蔵（ぶんこくら）、離（はな）れの建物（福岡河岸記念館）



福田屋の帳場（ちようば）（荷物の受付をしたところ）。上福岡歴史民俗資料館にも帳場が展示されているよ。さがしてみよう。



「吉野屋」の文庫蔵（記念館の駐車場にあります）



明治22(1889)年に、江戸時代から続いていた村を整理するため、4～5つの村をまとめて一つの村にする「町村制（ちようそんせい）」が行われました。そこで鶴ヶ岡村・亀久保村・苗間（なえま）村・大井村をあわせて「大井村」に、川崎村・福岡村・中福岡村・福岡新田・駒林（こまばやし）村をあわせて「福岡村」にしました。

大杉神社

福岡橋のそばにあります。建物は新しくなりましたが、明治11(1878)年に新河岸川舟運に関係する人たちが船の安全を祈ってまつりました。

中に明治18年につくられた天狗（てんぐ）の面のある大きな額がかざられています。

★上福岡歴史民俗資料館に本物とほぼ同じ大きさでつくった額があるよ！



みんなが通う「学校」のはじまり～旭^{あさひ}学校と三福^{さんぶく}学校～

明治4(1871)年ごろから政府は、国民すべてが学べるように、教師がいっせいに同じ内容で子ども達に教える「学校」をつくろうとし、明治6年ごろから、寺などを借りて学校があいついで開校しました。明治10年代には、通学しやすく、より多くの教室をもった校舎が必要と考え、村の人たちの努力で「旭学校」と「三福学校」が開校しました。しかし、当時は授業料が必要で、「子どもに学問は必要ない」「家の手伝いをすればいい」と考える親も多く、通学する子どもは30～40%ほどでした。そこで政府も、6才以上の子ども達は4年間必ず学校へ行くように決めました。

明治22(1889)年に「大井村」「福岡村」が誕生し、それぞれの村の学校として「旭尋常(じんじょう)小学校(今は大井小学校)」「福岡尋常小学校(今は福岡小学校)」と名前が変わりました。明治時代の終わりには法律をかえて、授業料をなくし、6年間必ず通学するようにしました。このころにはほぼ全員が学校へ通い、行事もふえていきました。



明治20年ごろの旭学校



資料館で見よう！「明治時代のもの」

★三福学校の建物って…!?



上福岡歴史民俗資料館
にあるよ！

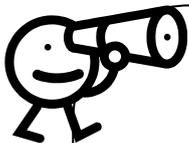
「三福学校」建物のもけい(15分の1)です。かやぶきの屋根で、教室は3教室でした。昔の家みただけど、窓は少し丸みをつけてあって、実はちょっと洋風なんです。

★火事の際は、出動だ！



大井町(大井宿)では明治21(1888)年に「消防組」がつくられました。このころはまだ消防自動車はないので、龍吐水(りゅうどすい)・まとい・はしご・鳶口(とびくち)などの道具を使って火を消そうとしたことがわかります。

大井郷土資料館にあるよ！



行ってみよう、見てみよう！

レンガづくりの灯ろう～苗間神明神社(なえま しんめいじんじゅ)～



市内苗間にある神明神社の境内には、夜にあかりをとるための「灯ろう」があります。神社の灯ろうは、石や木でできたものが多いのですが、これはレンガで作られています。

レンガは、江戸時代の終わりから明治時代の初めに外国から伝わった建築材料の一つで、日本では近代化をあらわす建物や工場などによく使われました。

このレンガづくりの「灯ろう」について、くわしいことはわかりませんが、作り方や飾りなどから明治20～30年代ごろに建てられたと考えられています。

